

平成 29 年 12 月 19 日

第 3 3 回「県民文化奨励賞」の贈呈について

一般財団法人ケンシン地域振興財団では、地域の文化活動に対する表彰事業を目的として、地域の文化活動の発展に功績のあった方々に「県民文化奨励賞」の贈呈を行いました。

1. 第 3 3 回「県民文化奨励賞」贈呈式

日 時 平成 2 9 年 1 2 月 1 3 日（水）

場 所 オリエンタルホテル広島

2. 受賞者

県民文化奨励賞

高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田実行委員会（地域文化活動）安芸高田市
久保田 寛子氏（染織作家）広島市在住

3. 受賞者の紹介

高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田実行委員会（地域文化活動）

委員長 浜田 一義氏

高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田実行委員会は、高校生の神楽甲子園を開催することを目的として、平成 23 年 5 月に設立。安芸高田市は、全国でも珍しい神楽専用施設「神楽ドーム」があり、神楽ドームのある観光交流施設「神楽門前湯治村」では、定期的な神楽公演が開催されるなど、神楽が非常に盛んな地域となっている。

「高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田」は、平成 23 年から毎年開催され、参加校数、来場者数ともに、年々増加。伝統芸能の保存・伝承に寄与するということを主たる目的とし、日頃の練磨の成果を発表するハレの舞台とするだけでなく、高校生自らが主催者の一員として、企画・運営にも携わっている。このことを通じて、保存・伝承活動に取り組む高校生同士が、交流を深め、技術向上に活かし、それぞれの地域での保存伝承活動に寄与しようとしている。また、互いの文化を認め合うことが重要と考え、「甲子園」という名前でありながら、順位をつけていないのも、大きな特長の一つである。

神楽甲子園を開催するだけでなく、平成 25 年からは、地域住民の協力による民泊を行うことにより、地域住民との交流も生まれている。この神楽甲子園を通じて、広島県の伝統芸能である「神楽」を伝承する若い担い手の育成や文化継承活動の普及をされています。

久保田 寛子氏（染織作家）

久保田氏は、高校時代、油彩画を描いていた時、絵具は混色すると色彩が濁るが、織物は異なった色系が交差することで澄んだ色彩を得ることができることに惹かれる。その後、様々な工芸の豊かな伝統に触れ、染織のわざ、とりわけ絣に魅力を感じられた。

氏は、ライフワークとして「旅」をテーマに絣の作品を制作しているが、現在は他所から来られたお客さまをもてなすようなていねいな作品制作を手がけられておられる。糸の染色では、青色は阿波のすくも藍を発酵させて建てたり、自ら育てた藍、黄色はヤマモモ、赤色はラック（ラックカイガラムシの色素）など、自分の作品に適した色彩と染料を見定め、織物表現。草木染の堅牢度の研究も積み上げている。作品においては、数々の賞を受賞されるなど評価は高い。制作活動だけでなく、県内の大学や専門学校において教鞭を執られるなど、後進の指導にも尽力されている。また、文化財の保存にも関心が高く、かつて、広島市安佐北区可部地域で生産されていたものの、現代では途絶えてしまった「可部の山繭」の復興のために地域で活動される方々と共に、広島で織物を制作する者の一助として精力を注いで活動をされています。